

科目区分	専門分野	授業科目	成人・老年看護学実習Ⅳ (終末期)
講師名	実習担当者	開講年次	2年第2学期～3年第2学期
単位数(時間)	2単位(90時間)		
目的：成人・老年期の終末期にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける 目標：1. 対象が持つ全人的苦痛とは、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛が関連していることが理解できる 2. 対象の全人的苦痛の緩和の方法を理解し、援助を実施することができる 3. QOLを考慮した日常生活援助を看護師と共に実施することができる 4. 対象を尊重し、闘病を支える家族へのケアが理解できる 5. チームアプローチの実際と調整役としての看護の役割がわかる 6. 看護者として必要な態度を身につけることができる			
授 業 内 容			
1. 対象が持つ全人的苦痛とは、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛が関連していることの理解 1) 身体的側面 (1)病態と予後 (2)症状の有無と程度 (3)対象の基本的ニーズとその逸脱 (4)治療・処置・検査の目的 (5)症状マネジメント 2) 精神的側面 (1)告知の有無と心理的影響 (2)インフォームド・コンセント (3)対象の疾患や症状に対する受け止め (4)死の受容過程 3) 社会的側面 (1)社会的役割の変化(家庭・職場・地域) (2)家族間の人間関係 (3)経済的問題の有無 (4)医療者と家族との関係 4) スピリチュアルな側面 (1)対象の生と死に関する考え方(死生観) (2)信仰(宗教)、個人の信念、ライフスタイル、生きがい、価値観 2. 対象の全人的苦痛の緩和の方法を理解し、援助の実施 1) 身体的苦痛の援助、精神的苦痛の援助、社会的苦痛の援助、スピリチュアルな苦痛の緩和方法及び援助 2) 危篤時、看取りの援助 (1)急変時の対応(対象者および家族の希望) (2)看取り時の対応(対象および家族の希望) 3) 安全を考慮した援助 (1)転倒・転落予防 (2)窒息予防 (3)皮膚損傷予防 3. QOLを考慮した日常生活援助を看護師と共に実施 1) QOL(対象の希望、生きがい、その人らしさ)を考慮した日常生活援助 (1)食事の意味を考慮した援助 (2)排泄の援助、尊厳への配慮 (3)清潔・整容の援助 (4)睡眠の確保 (5)物理的・人的環境の調整			

2) QOL（対象の希望、生きがい、その人らしさ）を踏まえた援助の工夫 4. 対象を尊重し、闘病を支える家族へのケアの理解 1) 対象、家族が大切にされていることの理解 2) 対象と家族を尊重した態度 3) 家族の疾患や症状に対する受け止め 4) 対象と家族の心理過程に応じた援助 5) グリーフケア 5. チームアプローチの実際と調整役としての看護の役割 1) 対象、家族へのチームアプローチの実際が分かり、調整役としての看護師の役割がわかる。 (1) 病棟内でのカンファレンス (2) 他職種での回診 6. 看護者として必要な態度 1) 相手（患者・家族・医師・看護師・他職種）を尊重し、思いやる姿勢 (1) その場にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 最善の看護の提供を追求 2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（研究的視点、他の研究成果の活用） (3) カンファレンス・振り返りの会等の積極的参加（他者の価値観を受け止め、自己の考えの表現） (4) 期限の厳守（提出物・約束事） (5) 体調管理 (6) 批判的思考 3) チームワーク (1) 報告・連絡・相談 (2) チーム内外の相互役割の調整 (3) 困難な状況時の応援要請 4) 医療安全への配慮 (1) アサーティブなコミュニケーションが取れる (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日常生活援助での事故防止の行動 (5) 個人情報の管理 5) 自己の看護観の明確化 (1) 大切にしていきたい看護について考え表現 ①自分の目指す看護師像 ②自己と向き合い課題解決のための行動			
授業方法	臨地実習	授業場所	浜田医療センター
評価方法	以下の内容を実習評価表（100%）に沿って評価を行う 看護実践・実習態度・出席状況・実習レポート		
備考			